

◎ 情報・システムソサイエティ

情報・システムソサイエティの平成12年度の活動は以下のとおりである。

(1) 総合大会の充実

大会本部に、(1)総合大会企画のための謝金・交通費の大会本部負担、(2)共催企画における、共催学会員の参加費減額、(3)パネル討論におけるPCスイッチャー設備充実、を働き掛けて実現に結び付け、活発な企画と実行しやすい環境を整えてきた。

2001年春総合大会では、大会開催地委員の立命館大学山内先生の協力を得て、総合大会初の試みである、デモ(チュートリアル)セッションをコンピューテーション研究専門委員会の主催で実現した。計算機センターの一室を借り、だれもが直面するような12のアルゴリズム課題がデモによって分かりやすく紹介された。

(2) ソサイエティ論文賞の創設と第1回表彰及び記念行事

ソサイエティの独立性、活性化を図る施策として、サーベイ論文、先見論文、連作論文を選定対象とするソサイエティ論文賞を設立し、ソサイエティ大会において第1回の表彰式及び受賞記念講演会を行った。対象論文は鳥脇・森“Recent Progress in Medical Image Processing-Virtualized Human Body and Computer-Aided Surgery”で、記念講演会に引続きパネルディスカッション「医用画像の計算機診断で将来医療現場はどう変わるか」を開催し、多数の参加者を得た。

(3) 第1回フェロー贈呈式及び第2回フェロー候補者推薦

ソサイエティ大会において第1回のフェロー贈呈式を行い、55名の方々にフェローの楯を贈呈した。フェロー楯贈呈後、新フェローの方々に思い出話や近況、学会に対する御意見などを述べて頂いた。特に研究及び学会のあり方に対しては極めて有益な御意見をおっしゃって頂き、今後の学会活動の参考にさせて頂くこととした。なお、第2回フェローについては11月末段階で30名の候補者の推薦があり、現在選定作業を行っている。

(4) ソサイエティ誌の充実

ソサイエティ内での情報交換を促進するため、ソサイエティ誌の充実を図った。具体的には、巻頭言を御執筆下さった方の似顔絵を表紙にするとともに、ソサイエティに関するアンケート、クイズなどの企画を設け、協力者には図書券を提供する試みを行った。なお、第1回フェロー贈呈式にあたっては新フェローに対してアンケートを行い、その集計結果を掲載し、好評を博した。

(5) 情報処理学会との大会の共同開催

情報・システムソサイエティと比較的研究分野に近い情報処理学会との間で、大会を共同開催することにより、規模の拡大を図るとともに、内容の充実を図ることを目的に、情報・システムソサイエティと情報処理学会の間で協議を行い、2002年秋のソサイエティ大会から同学会と共同で開催することで合意し、両学会会長及びソサイエティ会長の間で覚書を調印した。現在、両組織間でワーキンググループを作り、計画の具体化を進めている。

◎ ヒューマンコミュニケーショングループ

第二種研究会「福祉情報工学研究会」を第一種研究会への拡大を目指し、多彩な分野の研究者が参加できるように福祉工学系研究の体制拡充を進めた。また、恒例となっているヒューマンコミュニケーショングループ傘下の3研究会の合同開催によるヒューマンコミュニケーショングループ大会、及びグループ主催の特別企画セミナー「脳機能の計測とその応用—MR/脳磁計/脳波による解明—」を実施した。更に、一般市民への広報活動の一環として、多彩なデモンストレーションを交えた市民公開講座「ここまでつきあってくれる！コンピュータ21世紀」の開催を行った。また、学会員や会員外向けには、グループニューズレターを発行するとともに、ホームページの整備を行った。

1. 大会に関する事項

ソサイエティ大会

下記の期日・会場において各ソサイエティが開催した。

期 日 平成12年9月30日(土)～10月3日(火)
会 場 名古屋工業大学(名古屋市昭和区御器所町)
参加者 4,202名

懇親会 名古屋ビール園「浩養園」 参加者 200名

(1) 基礎・境界ソサイエティ大会

| | | |
|-----------|------|--------|
| 特別企画 | 2 課題 | 12 講演 |
| パネル討論 | 4 課題 | 22 講演 |
| チュートリアル講演 | 1 課題 | 5 講演 |
| 一般講演 | | 294 講演 |
| シンポジウム講演 | | 36 講演 |
| | 合 計 | 369 講演 |

(2) 通信ソサイエティ大会

| | | |
|-----------|------|----------|
| 特別企画 | 2 課題 | 8 講演 |
| パネル討論 | 3 課題 | 17 講演 |
| チュートリアル講演 | 5 課題 | 26 講演 |
| 一般講演 | | 929 講演 |
| シンポジウム講演 | | 67 講演 |
| | 合 計 | 1,047 講演 |

(3) エレクトロニクスソサイエティ大会

| | | |
|-----------|------|--------|
| 特別企画 | 1 課題 | 3 講演 |
| パネル討論 | 2 課題 | 12 講演 |
| チュートリアル講演 | 3 課題 | 18 講演 |
| 一般講演 | | 432 講演 |
| シンポジウム講演 | | 73 講演 |
| | 合 計 | 538 講演 |

(4) 情報・システムソサイエティ大会

| | | |
|-----------|------|--------|
| 特別企画 | 1 課題 | 4 講演 |
| パネル討論 | 3 課題 | 22 講演 |
| チュートリアル講演 | 2 課題 | 7 講演 |
| 一般講演 | | 308 講演 |
| シンポジウム講演 | | 7 講演 |
| | 合 計 | 348 講演 |

2. 国際会議に関する事項

次のとおり開催した。

| 会議名 | 開催年月日 | 参加者数 | 論文数 | 場所 |
|--|-----------------|---------|---------|------------------------|
| COOL Chips III | 2000.4.24 ~ 25 | 218 名 | 20 件 | 東京：機械振興会館 |
| The first international workshop on distributed computing, communication and applications (IWCCA 2000) | 2000.5.8 ~ 10 | 約 60 名 | 約 40 件 | パキスタン イスラマバード市 |
| 2000 International Technical Conference on Circuits/Systems, Computers and Communications (ITC-CSCC2000) | 2000.7.11 ~ 13 | 324 名 | 267 件 | 韓国釜山：Hotel Paradise |
| 第 5 回光エレクトロニクス・光通信国際会議 (OECC2000) | 2000.7.10 ~ 14 | 717 名 | 306 件 | 千葉市：幕張メッセ日本コンベンションセンター |
| ヘテロ構造ワークショップ (TWHM'00) | 2000.8.20 ~ 23 | 約 130 名 | 52 件 | 京都：京都市サテライトパーク |
| 2000 年アンテナ伝播国際シンポジウム (ISAP 2000) | 2000.8.21 ~ 25 | 約 600 名 | 約 400 件 | 福岡市：アクロス福岡 |
| Fourth Joint Conference on Knowledge-Based Software Engineering (JCKBSE 2000) | 2000.9.12 ~ 14 | 50 名 | 68 件 | Santon Hotel |
| 2000 IEEE International Symposium on Intelligent Signal Processing and Communication Systems (ISPACS 2000) | 2000.11.5 ~ 8 | 244 名 | 214 件 | Honolulu, Hawaii |
| 第 8 回ネットワークとプロトコルに関する国際会議 (ICNP-2000) | 2000.11.14 ~ 17 | 約 130 名 | 30 件 | 大阪大学コンベンションセンター |
| 第 7 回光導波科学・電磁界理論に関する日中合同会議 (OFSET 2000) | 2000.12.4 ~ 6 | 123 名 | 90 件 | 大阪大学コンベンションセンター |
| ASIA CRYPT 2000 | 2000.12.3 ~ 7 | 251 名 | 47 件 | 京都：京都国際会議場 |
| Asia and South Pacific Design Automation Conference 2001 (ASP-DAC 2001) | 2001.1.30 ~ 2.2 | 590 名 | 97 件 | 横浜：パシフィコ横浜 |

3. 出版に関する事項

3.1 和文論文誌の発行状況

各ソサイエティ別 (A・B・C・D) に 5 種類をそれぞれ次のとおり発行・配布した。

掲載総ページ数は 9,231 ページである。

| 分類 分冊 | 論文 | レター | その他 | 計 | 特集回数 回 | 発行部数 部 |
|----------|------------|------------|------------|------------|-----------|-------------------------|
| | 件数 ページ数 | 件数 ページ数 | 件数 ページ数 | 件数 ページ数 | | |
| A | 142 | 51 | — | 193 | 2 | 106,000 |
| | 1,391 | 227 | 172 | 1,790 | | |
| B | 196 | 26 | — | 222 | 3 | 178,500 |
| | 1,895 | 108 | 165 | 2,168 | | |
| C | 117 | 36 | — | 153 | 1 | 120,400 |
| | 938 | 120 | 170 | 1,228 | | |
| D-I | 108 | 19 | — | 127 | 2 | 74,200 |
| | 1,090 | 85 | 187 | 1,362 | | |
| D-II | 228 | 38 | — | 266 | 1 | 114,500 |
| | 2,220 | 290 | 173 | 2,683 | | |
| 計 | 791 | 170 | — | 961 | 9 | 593,600 月平均 9,894 |
| | 7,534 | 830 | 867 | 9,231 | | |

* その他：総目次 71 ページ、巻頭言 15 ページ、英文誌紹介 112 ページ、特集号募集案内等付物 669 ページ

3.2 英文論文誌の発行状況

各ソサイエティ別 (A・B・C・D) に 4 種類をそれぞれ次の

のとおり発行・配布した。

掲載総ページ数は 10,229 ページである。

| 分類 分冊 | Paper | Letter | その他 | 計 | 特集回数 回 | 発行部数 部 |
|----------|------------|------------|------------|------------|-----------|-------------------------|
| | 件数 ページ数 | 件数 ページ数 | 件数 ページ数 | 件数 ページ数 | | |
| A | 335 | 76 | — | 411 | 14 | 30,300 |
| | 2,716 | 312 | 224 | 3,252 | | |
| B | 259 | 56 | — | 315 | 6 | 34,400 |
| | 2,376 | 230 | 215 | 2,821 | | |
| C | 245 | 26 | — | 271 | 13 | 36,800 |
| | 1,713 | 84 | 199 | 1,996 | | |
| D | 194 | 33 | — | 227 | 5 | 29,600 |
| | 1,808 | 125 | 227 | 2,160 | | |
| 計 | 1,033 | 191 | — | 1,224 | 38 | 131,100 月平均 2,732 |
| | 8,613 | 751 | 865 | 10,229 | | |

* その他：総目次 104 ページ、Abstract 248 ページ、Foreword 67 ページ、特集号募集案内等付物 446 ページ

3.3 ニュースレターの発行状況

各ソサイエティ及びグループでは活動の一環としてニュースレター、ソサイエティ誌を論文誌等の付録として下記のとおり発行した。

| | | |
|--------------------|------|---------|
| 基礎・境界ソサイエティ | 6 回 | 72 ページ |
| 通信ソサイエティ | 4 回 | 76 ページ |
| エレクトロニクスソサイエティ | 11 回 | 60 ページ |
| 情報・システムソサイエティ | 4 回 | 100 ページ |
| ヒューマンコミュニケーショングループ | 1 回 | 4 ページ |

3.4 論文誌 CD-ROM の発行

昨年度に引き続き、和・英論文誌平成 12 年の年間目次、分野別索引、著者索引、キーワード索引を閲覧することができる CD-ROM を下記のとおり発行した。

| | | | |
|-----|---------|-----|----------|
| 和文誌 | A 350 枚 | 英文誌 | EA 300 枚 |
| | B 300 枚 | | EB 300 枚 |
| | C 300 枚 | | EC 250 枚 |
| | D 350 枚 | | ED 300 枚 |

3.5 IEICE Transactions Online

既に公開済の英文論文誌に続き、平成 12 年 7 月にはフェーズ 2 として、和文論文誌の電子公開 (平成 11 年 1 月分より発行後 6 か月経過した号を月次更新) を開始した。『IEICE Transactions Online』サイトへのアクセス数は 1 日 100 ~ 200 件あり、サービスの開始時からのアクセス総数は英文約 6 万件、和文約 4 万件となっている。

4. 選奨に関する事項

所定の手続きによって選考が進められ、次のとおり各受賞者を決定した。

4.1 エレクトロニクスソサイエティ賞

| 分野 | 業績 | 貢献者 |
|--------|-------------------------------|-------------------------|
| 第 1 分野 | マイクロコンピュータ、グラフィックスプロセスに関する貢献 | 前島 英雄 |
| 第 2 分野 | 量子ドットレーザの研究 | 荒川 泰彦 |
| 第 3 分野 | ミリ波帯 MMIC 増幅器及びモジュール技術の開発・実用化 | 伊藤 康之 佐倉 武志 伊東 康之 |

以上 3 件